



2022年7月22日

各 位

会社名 サンネクスタグループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 高木 章
(コード番号 8945 東証プライム)
問合せ先 執行役員総務グループ長 田中 俊治
(TEL. 03 - 5229 - 8839)

「取締役会の実効性評価」結果の概要について

当社は、コーポレートガバナンス・コードの要請に基づき、取締役会の実効性を確保し、機能向上を図ることを目的として、本年度（2022年6月期）も「取締役会の実効性評価」を実施いたしました。

その結果の概要を下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 本年度の評価の方法・進め方について

当社は、2020年7月1日付で持株会社に移行し、グループガバナンスを強化するとともに、取締役会の監査・監督機能のさらなる強化を図るべく、同年9月25日開催の当社第22期定時株主総会のご承認のもと監査等委員会設置会社に移行し、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図りました。

上記のとおり、前年度は新たなガバナンス体制による初年度にあたり、評価においては、2021年6月に改訂施行されたコーポレートガバナンス・コード等に照らした取締役会の在り方全般について、全取締役による自己評価を行い、当該結果をもとに取締役会で評価を審議いたしました。

本年度は、2021年12月度及び2022年1月度取締役会において当社取締役会の在り方について審議を重ね、2022年4月度及び5月度取締役会にて今回の取締役会実効性評価の進め方及びその審議ポイントについて確認しました。以降、評価を進め、6月度取締役会にて評価の審議を行いました。

2. 前年度（2021年6月期）の評価結果における課題への取組みについて

(1) 執行状況の共有の在り方について

持株会社及び監査等委員会設置会社の、独立社外取締役を過半数とする（現在は6名中5名）取締役会構成のガバナンス体制のもと、取締役会の監督機能の比重を高める一方で、監督に必要な執行状況の把握にあたっては、各事業会社の業務執行取締役による取締役会への報告機会の充実を図り、取締役会の監督機能とのバランスも踏まえつつ、計画的な議題設定を行い、また、執行部門から取締役会への報告内容の要約整理等、執行監督機能に資するさらなる整備を図りました。

(2) サステナビリティを巡る審議について

東証プライム上場会社（2022年4月移行）として、取締役会において、当社グループ及び各社の特性等を踏まえたサステナビリティに関する取組みの在り方について審議を重ねました。

(3) 内部監査機能の取締役会との連携強化について

グループ全体及び各社のリスクマネジメントとの連動のもと、新年度の内部監査計画策定に際しての独立社外取締役全員との事前協議、及び内部監査結果(状況)の取締役会への定期報告を実施しました。

3. 本年度の分析及び評価結果の概要と今後の課題解決に向けた取組みについて

本年度の評価結果については、取締役会における活発な意見交換のもと、前年度評価にて認識された課題への対応も含め、当社取締役会は全体として有効に機能しているとの結論に至りました。

一方、さらなる実効性向上にあたり今後の課題として整備すべき事項は以下のとおりと確認いたしました。

(1) 執行状況の共有と監督

2023年6月期は現行中期経営計画(「NEXT STANDARD 2025」)の折返し年度となり、中期経営計画に基づく重要施策の進捗や見通し、実施した投資に対する監督等に一層資するよう、取締役会への執行状況の共有の在り方について、さらなる強化を進めます。

(2) 取締役会の在り方に関する協議

取締役会の構成、独立性判断基準等を含め、取締役会の在り方について、本年度(2022年6月期)の取締役会における協議を踏まえ、取締役会の多様性等、取締役会においても継続的に協議を重ねてまいります。

(3) サステナビリティに関する審議

プライム市場上場企業に求められる水準を踏まえ、当社グループ事業の特性も考慮しつつ、サステナビリティについて継続的に審議してまいります。

以 上